
日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

Web 版 Vol. 3 (2011)

山上の方舟は漂わず

圓月 勝博

2011年3月11日の東日本大震災に被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。本年4月から、日本ミルトン協会会長に分不相応にも就任させていただくことになりましたが、最初のご挨拶を沈鬱な思いとともに始めなければならなくなった巡り合わせを深く悲しんでおります。

まず、本年8月22日から26日まで、本協会が共催団体となって、青山学院大学にて開催する予定をしておりました第10回国際ミルトン・シンポジウムに関して、本年度開催の見送りが決定されたという残念な報告をしなければなりません。上記シンポジウム実行委員会におきまして、多角的な検討作業を行いました。福島第一原子力発電所事故が予断を許さぬ事態を受けて、少なからぬ諸外国政府が日本への渡航に注意を呼びかけている今、上記シンポジウムを今夏に予定どおり決行しても、誰もが安心して参加できる国際的学術交流の場を提供するという当初の目的を実現することが難しいという苦渋の判断に至った次第です。

上記シンポジウム実行委員会は、日本における開催を断念したわけではなく、現在も検討作業を継続しており、事故の収束状況を注視しつつ、開催時期を2012年8月20日から24日に1年延期する可能性を積極的に探っております。検討内容の詳細に関しましては、佐野弘子実行委員長及び事務局の報告に譲りますが、本年8月末には最終的な結論を出し、上記シンポジウムのホームページ上にて公表しますので、事情ご高察の上、変わらぬご理解を賜りますように私からも会員の皆様にお願ひ申し上げます。

過酷な試練に直面した今だからこそ、私たちすべての励ましの源であるミルトンにあらためて目を向けてみましょう。彼の畢生の大作である『パラダイス・ロスト』は、1665年のペスト大流行および1666年のロンドン大火の記憶も生々しい1667年に世に現れました。17世紀イングランド最大の災厄に襲われた社会において、紙や印刷機の調達さえままならなかったであろうことは、復興作業の困難を痛感する今の私たちには想像に難くありません。そのような状況にもかかわらず、時流に乗

じるとは到底思えぬ古典的叙事詩の原稿がいち早く出版に漕ぎ着け、先見の明ある読者の手にすみやかに届くことになったという歴史的事実にこそ、『パラダイス・ロスト』が持つ永遠の文学的生命力の起源があるように思えてならないのです。

ミルトンの叙事詩に描かれた最大の災厄がノアの洪水であることに異論はないでしょう。ノアの洪水によって樂園が地上から姿を消す場面に物語が到ると、神の怒りを代弁するかのごとく激越の度を増すミルトンの筆は、軽快なヒロイック・カプレットに慣れ親しんだ同時代の軟弱な読者を峻拒するかのよう、伝家の宝刀とも呼ぶべき変幻自在の行跨りを狂おしいばかりに繰り返しながら、重厚なブランクヴァースを執拗に置みかけますが、樂園の喪失を目撃したアダムが絶望に打ちひしがれそうになったとき、洪水が終息に向かい始めるや否や、真っ先に静止するノアの方舟を指し示すために、詩人の言葉も行末で穏やかに休止を繰り返して、端正な佇まいを備えた無韻のカプレットを現出させます（11巻850-1行）。

The ark no more now floats, but seems on ground
Fast on the top of some high mountain fixed.

（方舟はもはや漂わず、大地の上にあるようで、
ある高い山の頂の上にとしっかりと止まっている。）

銜のない単音節単語の連続が荘厳なリズムを刻み続ける中、行頭の“Fast”と行末の“fixed”による頭韻によって堅牢に固定された2行目において、唯一の多音節単語である“mountain”が読者の心の目の前に高く聳え立ちます。ノアの方舟が止まった「高い山」に関しては、アララト山という固有名詞が「創世記」の中には明記されていますが（8章4節）、この場面を描くミルトンは、「ある高い山」と記すにとどめて、その具体的な所在をあえて特定しません。また、山上で静止した方舟を描く上記の一節は、洪水を描く際の過去形とは異なり、現在形で語られていることにも注意しましょう。人類の希望を象徴する山上の方舟は、特定の場所で特定の時期に起こった洪水とは異なり、『パラダイス・ロスト』と対峙する読者すべての心に宿る永遠の現在の中で静止し続けているのです。

日本のミルトン研究の高い水準を国内外に示し続けてきた本協会は、『パラダイス・ロスト』が描く山上の方舟のように、どのような不測の出来事にも翻弄されることなく、ミルトンという英文学の最高峰に向かって忍耐強く歩み続ける会員の不動の希望の象徴であり続けたいと願っています。大震災という過酷な試練の中でも、会員の皆様一人ひとりがご自分の心の中の山上の方舟を見失われることがないことを末筆ながら祈念して、会長就任のご挨拶に代えさせていただきます。

日本ミルトン協会 第3回 研究大会 報告

日時 2010年10月23日(土) 午前11時
場所 フェリス女学院大学緑園キャンパス 7号館 201教室

開会の辞 会長 中山 理

研究発表 司会 白鳥 正孝

1. セイタンの味方か否か —— 『失樂園』における混沌の描写をめぐって——
同志社女子大学 江藤 あさじ
2. 『失樂園』における預言 —— 新しい世界の創造——
日本大学 川崎 和基

シンポジウム: 「ミルトンの言葉(で)」 オーガナイザー 川島 伸博

1. ドライデン、ポープが利用するミルトンのことば
京都大学名誉教授 岡 照雄
2. ロマン派たちのミルトン継承 中央大学名誉教授 森松 健介
3. 汝自身を知れーミルトンの言語認識と自己認識
京都大学 桂山 康司
4. 恋に落ちないミルトン 大阪学院大学 川島 伸博

総会 司会 中山 理

1. 活動報告(西川 健誠)
2. 会計報告および予算審議(川島 伸博)
3. 会計監査報告(倉澄 恒子)
4. 会員改選
5. IMS 10への取り組みについて(佐野 弘子)
6. 2011年度大会開催校について
7. その他

閉会の辞 圓月 勝博

(出席者 34名)

日本ミルトン協会 第4回 研究会 報告

日時 2010年7月3日(土) 午後3時
場所 大阪学院大学 17号館 B1-04 教室
発表

1. 倉恒 澄子 ミルトンと音楽 ——対位法をめぐって——
2. 富樫 剛 ふりだしにもどる ——Sonnet XVI (“When I consider how my light is spent”) 熟読——

(出席者 12名)

日本ミルトン協会 第5回 研究会 報告

日時 2010年12月4日(土) 午後3時
場所 青山学院大学 青山キャンパス 総合研究所ビルディング(第17会議室)
発表

1. 小林 七実 ミルトン痛苦の発声 ——『政治権力について』
2. 水野 薫 〈知恵〉をめぐって ——ミルトン『失樂園』第七巻からの啓発——

(出席者 12名)

日本におけるミルトン研究文献目録 (2008 補遺)

- 圓月 勝博 「もしかしてミルトニック」(特集: ミルトン生誕四百周年記念 ——*Paradise Lost*『パラダイス・ロスト』——) 『英語青年』12月号 7-10。
- 倉恒 澄子 「立ち昇る香り——ミルトンの『樂園喪失』における改悛の祈り——」 『甲南女子大学英文学研究』 44: 1-14。
- 野呂 有子 「20世紀の『樂園の喪失』、そして現在」(特集: ミルトン生誕四百周年記念 ——*Paradise Lost*『パラダイス・ロスト』——) 『英語青年』12月号 15-19。
- 原田 範行 「樂園を離れて——ミルトン理解からみた文学の18世紀的変容——」(特集: ミルトン生誕四百周年記念 ——*Paradise Lost*『パラダイス・ロスト』——) 『英語青年』12月号 11-14。

水越 あゆみ「読者の楽園——ロマン主義詩人キーツは如何にして『パラダイス・ロスト』を誤読したのか——」（特集：ミルトン生誕四百周年記念 ——*Paradise Lost*『パラダイス・ロスト』——）『英語青年』12月号 15-18。

日本におけるミルトン研究文献目録（2009）

- 小野 功生 『ミルトンと十七世紀イギリスの言説圏』 彩流社。
笹川 渉 「楽園追放後の天使たち——ノーテボームの『ロスト・パラダイス』とミルトンの『パラダイス・ロスト』——」*Metropolitan*（首都大学東京・東京都立大学英文学会）54: 3-19。
Sano, Hiroko. “Hideyuki Shitaka, 1945-2009: In Memoriam.” *Milton Quarterly* 43: 235-36.
ジョンソン、サミュエル 『イギリス詩人伝』 圓月 勝博他 共訳 筑摩書房。
森 道子 「『闘技者サムソン』の制作年代について」『大手前大学論集』 9: 277-87。

日本におけるミルトン研究文献目録（2010）

- 金崎 八重 「なぜコウマスは逃げたのか——『コウマス』における自然——」『玉井 璋退官記念論文集』 英宝社 225-37。
佐野 弘子 「イギリス・ルネサンス詩人における自己成型の系譜——シドニー、スペンサーからミルトンへ——」『イギリス・ルネサンス期における言語と文化——時代精神と自己形成——』 英宝社 167-214。
中央大学人文科学研究所 編 『伝統と変革——十七世紀英国の詩選をさぐる——』 中央大学出版部。
西川 健誠 「甘えを鍵に読む宗教詩——ダンとミルトンの場合——」『十七世紀英文学と科学』 十七世紀英文学会編 金星堂 166-191。
水野 薫 「ワーズワスの『カムバランドの乞食』におけるミルトンの傾向——ケンブリッジ・プラトニズムに着目して——」『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』 10: 1-16。

事務局だより

2010年4月1日

MAJ より IMS10 に 300 万円の資金を拠出。

4月13日

MAJ 『会報』 2 号および 2010 年度行事予定を会員に送付。

7月4日

第 4 回研究会、運営委員会（出席者 7 名）

1. 2009 年度会計の報告および 2010 年度予算の審議がなされた。（これらは 10 月の総会にて承認された。）
2. IMS10 への対応について。目標額 200 万円の記念募金を行う。（9 月末に一回目のお願いを発送。）

10月23日

研究大会、運営委員会（出席者 9 名）、総会。運営委員会議事録は以下の通り。

1. 2011 年度以降の役員について——本紙 11 ページにある新役員案が承認される。新役員の任期は 2011 年 4 月 1 日より。
2. IMS10 への対応について——すでにおこなった 300 万円の援助に加え、来年度総会以前に追加資金援助が必要とされる事態が生じた場合は、共催団体である本協会より、100 万円を超えない援助を運営委員会が決定し、出金する。

12月4日

第 5 回研究会、運営委員会（出席者 5 名）。運営委員会議事録は以下の通り。

1. 2011 年度事業予定

第 6 回研究会	7 月 2 日	青山学院大学
第 7 回研究会・本年度総会	12 月 3 日	同志社大学

IMS10 本年度開催見送りについて

東日本大震災の後に起きた原発事故等の影響によって、海外からの日本渡航制限が行われている事実を踏まえて、IMS10 実行委員会は、残念ながら、IMS10 の 2011 年 8 月 22 日から 26 日の開催を断念することになりました。現在、事態の推移を慎重に見ながら、2012 年同時期（8 月 20 日から 24 日）の開催の可能性の検討に入っています。この検討の結論は、2011 年 8 月末までに出し、9 月 1 日に公表することとしました。よろしくご了承ください。

なお、IMS10 に付随する文化イベント（能・コンサート）については、2012 年 8 月に IMS10 が開催されるか否かにかかわらず、2012 年 8 月 21 日と 22 日に実施する予定です。ふるってご参加いただければ幸いです。

また IMS10 開催にかかわる MAJ 会員皆様へのご寄附のお願いにお応え下さった方で、今回の開催時期の変更により、寄付金の返還をご希望の方は、ご遠慮なくお申し出下さい。特にお申し出のなかった方に関しては、2012 年度実施の可否の最終決定が公表される 2011 年 9 月 1 日まで、事務局にて責任をもって寄付金を保管させていただきます。その後の扱いに関しては、あらためてご連絡を差し上げます。

2011 年度の MAJ 行事は 2010 年度大会時に決定の通りで変更ありません。大会は開催せず、7 月 2 日に青山学院大学において研究会、12 月 3 日に同志社大学において研究会と総会を行います。

訃報

桜美林大学名誉教授の小森禎司氏が、2010 年 10 月 30 日にご逝去されました（享年 72 歳）。日本ミルトン・センター創立時からの会員で、1979 年から 2007 年まで委員としてご尽力くださいました。『力者サムソン』をはじめとする訳書・著書をはじめ、International Milton Symposium でのご発表など国内外で精力的に活躍されました。在りし日を偲び、心より哀悼の意を表します。

2009 年度会計決算報告および 2010 年度予算案

(自 2009 年 4 月 1 日 至 2010 年 3 月 31 日)

	摘要	2009 年度予算	2009 年度決算	2010 年度予算案
収入	会費	350,000	333,500	350,000
	前年度繰越金	1,035,273	1,035,273	1,330,338
	雑収入	0	21,961	0
	計	1,385,273	1,390,734	1,680,338
支出	通信費	70,000	37,380	70,000
	印刷費	50,000	0	50,000
	会場費	80,000	21,636	70,000
	振込み関連費	20,000	1,480	10,000
	次年度繰越	1,165,273	1,330,338	1,480,338
	計	1,385,273	1,390,734	1,680,338

基金会計（スーパー定期 5 年）：三菱 UHJ 信託銀行 4,100,000 円

（なお 2010 年 4 月 1 日、IMS10 開催資金として、3,000,000 円を基金から拠出しました）。

日本ミルトン協会規約

1. 名称 本会は、日本ミルトン協会（The Milton Association of Japan）と称する。
2. 目的 本会は、日本ミルトン・センター（The Milton Center of Japan, 1975 年 7 月 18 日－2008 年 3 月 31 日）の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. 事業 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
 - (1) 研究大会
 - (2) 研究会
 - (3) 広報活動
 - (4) その他

- 4. 組織** 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
- 5. 役員** 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。
- | | |
|--------------|------------|
| 会長 1 名 | 事務局長 1 名 |
| 事務局委員 2 名 | 企画委員 6 名 |
| ホームページ委員 2 名 | 会計監査委員 2 名 |
- 6. 機関**
- (1) 総会
本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
- (2) 運営委員会
運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。
- | | | |
|------|----------|-------|
| 会長 | 事務局長 | 事務局委員 |
| 企画委員 | ホームページ委員 | |
- (3) 事務局
事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
- (4) 企画委員会
企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
- (5) ホームページ委員会
ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
- (6) 顧問をおくことができる。
- 7. 会計**
- (1) 会費
会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費はその半額とする。
- (2) 会計監査
会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。
- 8. 規約の改正** 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

付則 役員の選出

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、

総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、最長 2 期とする。

- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。

9. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

日本ミルトン協会 役員および委員

(2011年4月1日現在)

顧問	新井 明	聖学院大学
	永岡 薫	滋賀大学（名誉教授）
会長 事務局長 事務局委員	圓月 勝博	同志社大学
	西川 健誠	神戸市外国語大学
	川島 伸博	大阪学院大学
	富樫 剛	フェリス女学院大学
企画委員	桂山 康司	京都大学
	川崎 和基	日本大学
	中山 理	麗澤大学
	野呂 有子	日本大学
	佐野 弘子	青山学院大学
	箭川 修	東北学院大学
ホームページ委員	清滝 仁志	駒澤大学
	笹川 渉	首都大学東京
会計監査委員	小林 七実	（同志社大学）
	小山 薫	同志社女子大学

*（ ）は非常勤講師

日本ミルトン協会 会報
Newsletter of the Milton Association of Japan
第 3 号

2011 年 5 月 5 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会
〒651-2187 神戸市西区学園東町 9-1
神戸市外国語大学 外国語学部
西川 健誠 研究室
振替番号 01050-2-24883